

# 貯木場の検知業務を円滑に進めるための工夫

福島署・福島貯木場 ○川中島利一  
大橋 力雄

はじめに

私たちの職場では、日常業務を進めるうえでも、また、安全を確保するためにも、より確実で効率的な方法を全員で工夫し、その定着を図っているところである。

なかでも安全の確保については「不要な物は置かない」「必要な物を決められた数だけ、決められた所に保管する」「職場の清掃、清潔を徹底する」等を基本とした4S運動の推進を皆で申し合わせ、これを軸とし創意工夫を重ねながら災害のない職場作りに取り組んでいるところである。

一方素材の販売にあたっては、有利販売を徹底して行うこと前提に、市場性の高い桎作りを重点として、貯木場を訪れる業界への対応についても細かな配慮を行う等、そのニーズの動向の適格な把握に鋭意努めているところである。

さて、素材の小口表示は、品質・規格を表示し、その商品価値をも左右する程に重要であることから、より鮮明でなくてはならない。

従来当貯木場では、先端を細かく割った竹筆にベニガラ溶液をつけて使用していたが、これだと検知者の両手が常にふさがた状態であり、時にはつまずいたりしてこのベニガラ溶液を浴びるなど、安全・効率性の面で問題があり、市販されている既製品も試みたが適当ではなかった。そこで独自に工夫し「小口表示用簡易筆」を開発し使用したところ、非常に好評であるのでその作成方法を発表する。

## 1. 用意する材料及び道具

### (1) 材 料

スズ竹・・・直径・5mm長さ14cm程度のもの、1本

サワラ端材・・・小丸太の輪切り材でもよい、2個

塩化ビニールパイプ・・・直径3cm・長さ28cm程度のもの、1本

ビニールテープ

木工用ボンド

## (2) 道 具

腰鉋、手鋸、電気ドリル、サンドペーパー、針金

## 2. 製 作 方 法

(1) 最初に筆の先になるスズ竹の中を、用意した針金で前後に通して、ベニガラ溶液が通りやすくするために掃除をする。

次に先端を縦に5cm程度細かく割り、1枚ずつ内側の肉をナイフで削り、先を柔らかくし最後にビニールテープで筆の元のほうから筆先に向けて、太さを調節しながら締めつける。

(2) 筆の取り付け部分の栓は、手鋸、腰鉋を使用して直径3cm長さ5cm程度に粗作りして電気ドリルで中心に5mm程度の穴を開ける。

仕上げでは、ナイフで円形に削りサンドペーパーで磨き、出来上がった栓に(1)で製作したスズ竹の筆を差しさしこむ。

(3) パイプの底部になる栓も手鋸、腰鉋で粗作りし、ナイフとサンドペーパーで磨き、さらに水漏れ防止に木工用ボンドを塗り、手で押し込み完成である。

なおベニガラ溶液の注入は筆の付いた方の栓を外して行う。

## 3. 経 費

塩化ビニールパイプを購入すると1本75円であるが、廃品利用で十分まにあう。スズ竹は貯木場敷地内に自生しているものを使用し、栓にはサワラの端材を使用するため、経費は一切かかっていない。

## 4. 成 果

(1) 検知者は片手で作業ができるようになり、安全かつ効果的に検知業務ができるようになった。

(2) 小口の大きさに応じた表示が容易となった

(3) 表示内容が鮮明で見易くなった。

(4) 材料は容易に入手でき、手軽に安価に製作できる。

おわりに

毎日の仕事を進めていく中で、絶えず創意工夫を行い、よりよいアイデアを出し合い、これを生かしていくことが、明るく活力ある職場づくりの原動力であると考え、今後とも積極的に取り組んでまいりたい。

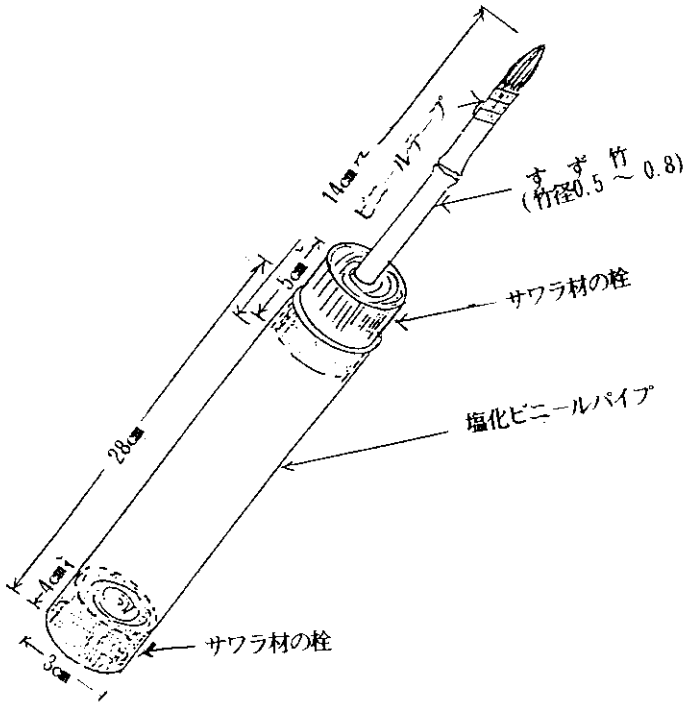


図-1 木口表示用簡易筆完成図